

職場紹介

「仙台整形外科病院を紹介します」

副看護部長 千葉 千恵子

当院は1986年に開院し、整形外科の中でも脊椎と膝関節疾患の治療を中心とした整形外科単科の専門病院です。仙台市の東部に位置し、東部道路の東インター、地下鉄東西線の荒井駅にも近く、開院当初より交通の便が大分改善されました。

病院長の方針でもある「患者さんと共に歩む医療」をモットーに、治療方針や診療内容を十分に理解できるように説明し診療にあたっています。私たちも他職種と連携をとりながら患者さんが安心して社会復帰できるよう努めています。

現在の病床数は146床で、一般病棟が98床、回復期リハビリ病棟が48床です。年間の手術件数は700～800件で5割が脊椎、3割が膝疾患です。脊椎内視鏡センター、膝関節センター開設により、専門性の高い診断が可能となり、内視鏡による低侵襲手術を行うことで入院期間の短縮にもつながっています。また、手術以外に椎体骨折の治療も積極的に行われており、ボディキャスト固定後硬性コルセット装着し、社会復帰するまでの長期入院の患者さんにも対応しています。

看護部は3交代・2交代混合性を取り入れており、職員の希望により組み合わせで勤務表を作成しています。その点では小さい子供さんがいても働きやすい環境であると思います。2017年に当院から徒歩1分のところに看護学校ができたため、研修を受けた看護師を中心に実習指導も行っています。

この2年間は各医療機関で新型コロナ対策を行い大変な時期を過ごしましたが、収束に向かい情報共有や研修が積極的に行えるようになることを心より願っています。

お知らせ

令和4年度 宮城県看護協会 仙台南支部 通常総会のお知らせ

日時 令和4年5月20日(金) 13:00

場所 JR仙台病院

編集後記

仙台南支部だより74号を発行することができ、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策として、活動の制限が避けられない状態でありましたが、各施設の活動の様子やコロナ禍における問題などお伝えすることができればと思います。

今後とも、皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

広報委員一同



第74号
発行所
(公社)宮城県看護協会
仙台南支部
事務局
仙台市青葉区五橋1-1-5
JR仙台病院
TEL022(380)2373
印刷所
KAMADA PRINT

ご挨拶

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHO仙台南病院

小野寺 悦子

日頃より会員の皆様には看護協会の支部活動、事業運営にご協力いただき誠にありがとうございます。今年度より副支部長の役割を担うことになりました、JCHO仙台南病院の小野寺と申します。コロナ禍での活動自粛や制限された中で、少しでも皆様のご要望に添えるよう頑張りたいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今年度の支部総会は、会場に参集する方と、オンラインで参加する方をインターネットで繋いで行うハイブリッド形式で開催されました。残念ながら、10月に予定されていた「まちの保健室・若林区民祭り」は感染状況を考慮し、中止となりました。大人数で集まる会議やイベントを中止・自粛せざるを得ないこのような状況ではありましたが、地域包括ケアの推進、地域管理者との連携強化で、保健・医療・福祉をつなぎ、地域で暮らす人々を支える仕組み作りを目指すために、運営方法を検討し、12/17に今年度第1回目となる管理者ネットワーク会議をハイブリッド形式で開催することが出来ました。ご多忙の中、多くの方に参加していただき、誠にありがとうございました。短い時間ではありましたが、コロナ禍での施設の状況や、今後のネットワーク会議に対するご要望などが聞けたことはとても有意義であったと思います。皆様の声を今後の活動に活かせるよう努力したいと思います。

世間ではコロナ感染の第6波、第7波と言われています。不安を抱えながらも「医療者として」「医療者だから」という思いで感染対策を行い、自身の行動も制限されてきたのではないのでしょうか。これまで頑張れたのは同僚や家族・友人の支えがあったからだだと思います。看護職が安心して働き続けられる環境づくりを推進し、様々な状況下でも活動が続けられるよう皆様のご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。今までの努力が無駄ではなかったと思える日が来ることを願わずにはられません。

現場の声

コロナ禍における認知症高齢者への看護

JR仙台病院 認知症看護認定看護師
和泉 香奈

当院は急性期病院であり、私は内科・循環器内科病棟で勤務しています。今回、コロナ禍において、認知症高齢者の方への看護に変化があったと感じた2つの事柄をあげたいと思います。

まず1つ目は、感染予防対策としてのマスクの着用です。マスクの着用は、口元が見えず表情が分からない、また声が聞きにくくコミュニケーションエラーを引き起こしやすくなります。そこで気をつけたポイントは、まずは相手の視界に入り声をかけて反応を確認します。そして、いつもよりゆっくりはっきりとした口調で声をかけます。必要時はジェスチャーをつけて表現するようにし、安心できるよう優しく体に触れることも効果的であったと感じます。

2つ目は、家族との面会制限です。認知症高齢者の方に限ったことではありませんが、入院前の情報や家族との関係性を知る上で、面会制限は大きな変化でした。患者さま自身としては、不安や淋しさ、「なんで来ないの?」と見捨てられたような気分になられる方もいました。家族の方も、認知症が悪化するのではないかと、看護師に迷惑をかけてしまうのではと不安を話される方もいらっしゃいました。その中で、オンライン面会は、双方の笑顔が見られ安心できる手段の1つでした。認知症の方が理解できるだろうかとやや不安な面もありましたが、「テレビの中に息子がいる!あらなんでしょう。」と言いながら笑顔で手を振っておられた場面は印象的でした。また好きな物や、普段実際に使っている物(服、写真、鞆など)を持参していただき、病室を患者さまが安心できる環境にすることも効果的であったと感じています。

今後もさまざまな制限は続いていくと思いますが、その中でも入院による患者さまの認知機能の低下を予防し、安心して過ごせる入院環境作りを行っていきたいと思います。

看護の魅力を伝える

昨年度、「看護の魅力を伝える」を地域の皆様に伝えることをテーマに、南支部の病院の活動の様子のお写真がたくさん集まりました。緊張感が伝わる現場や、看護の温かさが感じられる素敵な写真の一部をご紹介します。



なお、看護協会南支部のホームページに写真を掲載いたしましたので、皆様ぜひご覧ください。

宮城県看護協会南支部HP <https://miyagi-kango.or.jp/branch/minami/>